

令和7年度 全国学力・学習状況調査より ～結果の分析と改善点～

令和7年10月発行
坂井市立春江中学校

学習面について

国語

文脈に即して漢字を正しく選択することや、事象や行為を表す語彙を選択することについては概ね良好です。一方で、根拠を明確にしたり、表現を工夫したりして、自分の考えを伝える文章を書くこと、文章を読んで自分の考えをもつことに課題がみられます。また、後半になるにつれ、無回答率が非常に高くなっています。思考・表現力を高めるため、読み取ったことをもとに「自分の考えをもち表現すること」に重点をおいた授業づくり努めていきます。また、諦めずに、最後まで設問に取り組む姿勢を指導し、時間内に問題を読む力を育てていきたいです。

学習指導要領の領域	話す・聞く	書く	読む	言語
県平均	▲	▲	▲	◎
全国平均	◇	▲	▲	◇

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県平均	◎	▲	
全国平均	◇	▲	

- ▲【ちらし】の読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を、条件1条件2にしたがって書きなさい。（根拠を明確にして文章を書く問題）

条件1 美術展の【工夫】のA.Bから一つ選び、それと結びつく小学生の【感想の一部】をアからウまでの中から一つ選ぶ
条件2 その二つの関係がわかるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと

- ▲「榎木の実」の波線部（問いかけ）が、物語の初めに示されていることによる効果を説明したものとして、最も適切なものを次の1から4までの中から一つ選びなさい。
正答 2（榎木の実に関する経験を問い、関心をもたせる効果）

- ▲【手紙の下書きの一部】に、一箇所漢字の誤りがあることに気づきました。誤って書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。
正答 専門→専門

- ◎「話の順序を入れ替えた方が良い」という助言の意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
正答 1（長所は内容を把握してから聞いた方がよく理解できる）

- 「しきりと」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
正答 3（何度も）

本校の平均正答率(%)の全国・県との比較

- ◎・・・2ポイント以上の +
○・・・1ポイント以上から2ポイント未満の +
◇・・・±1ポイント未満
▲・・・1ポイント以上から2ポイント未満の -
▲・・・2ポイント以上の -

- ＜留意点＞ 1 調査結果から読み取れるのは、あくまでも児童生徒の学力の一部分であり、学校における教育活動等の側面です。
2 「成果」と「課題」は、学校全体の実態を示したものでなく、調査対象である「中学校第3学年」の調査時点（4月）における状況を示したものです。

数学

各領域・評価の観点において、全国の平均より低い正答率でした。特に、割合に関連する問題の正答率が低い結果でした。「数と式」領域の文字式で表す問題、「関数」領域のyの増加量に関する問題、「データの活用」領域の相対度数を求める問題など、1(単位)あたり量に関する理解が定着していないことが原因としてあげられます。数学が「できる」ようになるには、知識を積み上げ、活用していくことが必要です。理解を確かなものにするために、今一度小学校の学習とのつながりを意識しながら理解を深めていきましょう。今後は、計算力や基本的な図形への理解を促す指導を心がけていきます。それらの理解が深まることで、応用問題や発展的な問題に対しても対応できる力がついていきます。多くの問題に触れ、生徒が「できた」「わかった」と思えるような授業を考え実践していきます。

学習指導要領の領域	数と式	図形	関数	データの活用
県平均	▲	▲	▲	▲
全国平均	▲	▲	▲	▲

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県平均	▲	▲	
全国平均	▲	▲	

- ▲数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかを見る問題

- 2 オレンジの果汁が40%含まれている飲み物があります。この飲み物a mLにオレンジの果汁は何mL入っていますか。aを用いた式で表しなさい。

正答 0.4a

- ▲統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる。

(2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、BE=DFとなる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直さなければならない部分を、下のアからオまでの中から一つ選び、正しく書き直しなさい。



- ア 平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
AD // BC
よって、AF // EC ……①
- イ 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
AD = BC ……②
- ウ 仮定より、DF = BE ……③
- エ ②、③より、
AD + DF = BC + BE ……④
- オ ④より、AF = EC ……⑤
- ①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

正答 エ AD+DF=BC+BE…④と記述しているもの。

- ▲一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうか

- 4 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、xの増加量が2のときのyの増加量を求めなさい。

正答 12

- ▲相対度数の意味を理解しているかどうかをみる

- 5 下の表は、ある学校の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録	
階級(m)	度数(人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答 0.25

理科

知識や技能を身の回りのことに活用することよりも、知識や技能の定着に課題が見られます。まずは知識や理解が定着することで、それを活用して、自然の事物・現象や科学技術などを考察したり説明したりすることができます。科学的に探究する能力と態度を育てるために、根拠を示し、事実と考察を区別して表現するような論理的な説明方法を身につけるように指導していきます。

学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
県平均	◇	△	△	▲
全国平均	△	◎	◎	○

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
県平均	▲	△	
全国平均	○	◎	

◎ 塩素の元素記号を記述する
正答 Cl

◎ 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する
正答 低い姿勢で避難する

◎ 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する
正答 スチールウールをほぐして火をつける

▲ 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する
回路全体の抵抗が大きい装置
正答 装置1

速く水が温まる装置
正答 装置2

▲ 地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する
正答 地層2の下側にある青色の枠内を選んでるもの

生活面について

生活面のアンケート調査によると、本校生徒は、多くの項目で全国平均を上回っています。下回っていた項目は、家庭との連携・協力を図りながら生徒の意識を高め、改善していきたいと思います。

良いところ

[生徒質問紙より]

😊 **生活習慣が確立している。**
・朝食を毎日食べている。
・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
・毎日、同じくらいの時刻に起きている。
本校 96.1% (全国 91.2%)
本校 84.1% (全国 81.0%)
本校 92.2% (全国 92.6%)

😊 **学校生活で友達と良好な関係が見られる。**
・学校に行くのは楽しい。
・友達関係に満足している。
・自分と違う意見について考えるのは楽しい。
本校 88.8% (全国 86.1%)
本校 94.3% (全国 91.4%)
本校 82.1% (全国 79.2%)

😊 **学級での話し合い活動が活発である。**
・学級活動で、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
・学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
・道徳の授業では、学級やグループで話し合う活動に取り組んでいる。
本校 87.5% (全国 84.3%)
本校 82.6% (全国 77.3%)
本校 93.3% (全国 91.5%)

改善するところ

😊 **学んだことを生かそうとする態度を養う。**
・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできる。
・分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えることができる。
本校 80.1% (全国 84.7%)
本校 69.1% (全国 73.4%)
本校 65.7% (全国 74.8%)

家庭学習に取り組もう

😊 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)家庭で、塾等も含めて1時間以上学習する生徒の割合は、本校では53.6%(令和6年度65.0%)です。県平均は51.1%、全国平均は61.6%であり、県の平均よりは高くなっています。また、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上学習する生徒の割合は、本校では26.2%(令和6年度31.0%)、県平均は27.4%、全国平均は32.5%となっています。

このことから、本校3年生の家庭学習の時間は減少傾向であり、学習内容の定着(復習)、自主性の育成(予習)などの観点から、家庭学習を充実させていく必要があります。現在は、「生徒が主体的に学習に取り組むことができるように」と、各教科の課題(宿題)の量も考えられています。課題(宿題)は家庭学習に取り組み始めるきっかけとし、「課題(宿題)が終わってからが本当の学習」と捉えて、家庭学習の時間を確保しましょう。

Q.学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

(学習塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

	3h以上	2～3h	1～2h	0.5～1h	0.5h未満	まったくしない	無回答
本校	8.2%	13.0%	32.4%	28.0%	13.0%	4.8%	0.5%
県	4.8%	12.6%	33.7%	27.8%	14.7%	6.2%	0.3%
全国	9.9%	20.9%	30.8%	19.1%	11.3%	7.7%	0.4%

Q.土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

(学習塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

	4h以上	3～4h	2～3h	1～2h	1h未満	まったくしない	無回答
本校	3.9%	3.9%	18.4%	29.0%	29.5%	10.6%	4.8%
県	4.6%	5.6%	17.2%	30.2%	29.4%	10.7%	2.3%
全国	5.3%	8.5%	18.7%	25.4%	24.1%	15.4%	2.2%

